市民からのお便り

（親子クイズ）いろんな分野から出題されるので勉強になります。

親子クイズ 528

Q 平成２７年　坂本龍馬の生誕１８０年を祝うため、高知新港にやってきて、セイドリルをした帆船の名前を下記から選んでください。

① 日本丸

② 土佐海援丸

③ 海王丸

④ 咸臨丸

【第527回解答】

① ウ　② イ　③ シミ

【第527回当選者】

秦泉寺　早甫　（岡豊町）
今井　萌乃　（岡豊町）
須江　愉衣　（大埇乙）
今西　穂乃花　（大埇甲）
竹村　節代　（香美市）

■応募締切／５月12日（木）必着
■あ て 先／〒７８３－８５０１
南国市大埇甲２３０１
南国市企画課「親子クイズ係」
＊はがきで応募
■賞　　品／正解者の中から抽選で、５名に図書カード（1,000円）を贈呈

★応募総数／36通　★正 解 率／78％

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

こころ　ふれあい　つながって 62 人権学習シリーズ

「優しさの器」

皆さんは「優しさの器」をご存知でしょうか。私が初めて耳にしたのは、４年前の子育てに関するとある講話でした。子どもは、この「優しさの器」を必ず持っているのだそうです。

講師が言うには、子どもが優しかったり、そうでなかったりするのは、この器が関係しているのだとか。この器が優しさでいっぱいになり、あふれ出したとき、あふれた優しさが周囲への優しい言葉や行為となって表れるのだそうです。

例えば、兄弟やお友達と比べて、この子は優しくないな、と思ったらそれはその子の器がまだ優しさで満たされていないからなのだそうです。この器は人によって大きさが異なり、小さい器はすぐにあふれ出します。けれど大きい器は、家族や周囲の人から同じ優しさを受けていても、なかなか満たされないため、「優しさが足りない子」と思われてしまうそうです。

講師は、「持っている器の大きさは、兄弟でも全く違う。だから、同じようにしているのにどうしてこの子は優しくないのだろう、などと比べないで。周りの大人が優しくしたり、人に優しくする様子を見せると、必ず器はいっぱいになるから心配しないで」と言っていたのを覚えています。

この器の話は、大人にも当てはまるのではないでしょうか。周囲の人から優しくされたら嬉しいと思いますし、誰かが人に優しくしている様子を見たときには、それだけで心が温かくなったり、自分も人に優しくしようと思ったりします。けれど、辛いことがあったり、ストレスが溜まると、回復するのに器の中の優しさを消費してしまうのだと思います。だから、人に優しくできたりできなかったりするのでしょう。再び器がいっぱいになったら、また人に優しくなれるのです。

「優しさの器」は誰もが持っています。人の器を満たすことのできる人になりたいと思います。

※このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ
人権啓発広報委員会
☎８８０・６５６９

市民からのお便り

いつも行事のページ、楽しみにしています。

にこにこライフ 190

拳禅一如！！

西村　建夫さん
（大埇甲）

高校を卒業後、自衛隊へ入隊し、そのときに香川県で少林寺拳法に出会いました。自衛隊には４年間在籍し、その後、鈴江農機に勤めることとなりました。会社では福利厚生の一環で会社の中に道場が作られ、そこで少林寺拳法を指導しました。仕事をしながら、家庭や少林寺拳法の指導者をしっかりとこなすことは大変でした。その後会社が倒産し、自営業をすることになりました。会社員の時に培った人の縁がなければ自営業として立ち上がることは難しかったかもしれません。

現在は自営業をやめて、自宅に隣接して建てた道場で、週に４回、１時間程度の指導を行っています。弟子２名に協力をしてもらって指導をしていますが、最大10名ほどで練習することもあり、細部までの指導は難しいです。自分自身は気が長い性格で、子どもに怒ったことはなく、諭す指導をしています。一番うれしいのは、弟子が指導者として育つことです。少林寺拳法は体だけでなく、心も鍛えており、「拳禅一如」をかかげています。たたきあい「殴り合いだけではただの格闘家で、相手をやっつけるだけでは80歳まで続けることはできませんでした。

今後については、３年後の道院長の資格更新を目標にしています。これからも若い人たちとともに歩み、青少年の健全育成のため、活動していきたいです。そのために毎日30分の散歩を欠かさないようにしています。

最近、少林寺拳法の最高段位である９段に昇段されたそうです。少林寺拳法のことをとてもいきいきと語っておられました！

なんこく歴史散歩 第41回

－琴平神社－

琴平神社は里改田の琴平山の頂上にあります。俗に十市の金比羅さまといいますが、これは毎月十日に市が立っていたので、十日市の金比羅さまというのがなまったものだそうです。

天智天皇が五穀の豊作と国民の幸福を願って、黒田郷に黒崎の宮を建てたのが始まりとされ、その後白鳳13（６８４）年の大地震で、黒田郷が海中に沈んだため、浜改田の神田の地に金比羅大権現として祀ったという伝承があります。

琴平神社社殿

現在の地には、寛永18（１６４１）年に移ってきました。祭神は大物主命でしたが明治維新後崇徳天皇を合祀しています。

拝殿・本殿等の建物は、香美市の美良布神社とともに、県下の壮麗な神社の双璧とされ、多くの絵馬も伝わっています。

また、社殿入口の玉垣のうちの９本には安政元（１８５４）年の安政地震の様子が文字に刻まれています。それによると、「大地震で山は崩れ、火災により家や家財すべてが灰になり、その後、大津波によってどんな建物も流される」という意味のことが書かれ、南海地震の教訓を後世に伝えています。

安政地震の玉垣

西側に目を移すと、境内は広く、海側に絶景が広がっており、西南隅には、灯明台とよぶ台形の石積みがあります。藩政時代、灯りをともして航海の便をはかったもので、現在の灯台の役目を果たしていました。琴平神社は今も土佐湾を行き来する船舶の安全を見守っています。

■問い合わせ
生涯学習課文化財係
☎８８０・６５６９